



株式会社山田製作所

社内ベンチャー制度で 従業員のアイデアが 製品開発につながる



伊勢崎市

住 所・・・伊勢崎市香林町2-1296
T E L・・・0270-40-9111
U R L・・・<https://www.yamada-s.co.jp/>
代表者・・・佐藤 賢
設 立・・・1946年2月26日
資本金・・・2,000,000千円
従業員・・・1,285名

WEBサイト



事業者紹介

山田製作所は1946年の創業以来、四輪車、二輪車用のオイルポンプ、ウォーターポンプを中心に各種ポンプ製品、ステアリング関連製品、トランスミッション関連製品など、「走る、曲がる、止まる」といった重要な機能部品を提供しています。当社の80年にわたる企業活動において変わらぬ使命は「世界一級品」のものづくりであり、「優秀なる品質の製品を低廉なるコストにて生産し、もって社会に貢献すると共に我々の生活を繁栄させる」という社是の基、飽くなき挑戦を続けてきました。その精神に基づき新たな事業の開発にも挑戦しています。

経緯・背景

山田製作所は、従業員による社会課題を解決するための事業を公募しています。社内の仕組みとして、社内ベンチャー制度を立ち上げ、また新たに新事業開発部を設立しました。これらの取組により既存事業とは異なる新たな事業を創出することを目指しています。従業員や組織から提案されたアイデアをビジネスモデルとして具体化して事業性を検証、製品の試作品を製作し実証実験や試験販売を行っています。これらの結果を反映し改善したのち、2025年度には本格的な量産販売を行う予定です。従業員のアイデアや能力を活かし、社会課題の解決に貢献することを目指しています。

電動モビリティの開発で 地域の交通事情の 改善に寄与

具体的な取組・成果

●超微細気泡発生装置の開発・量産

山田製作所で廉価な超微細気泡発生装置を開発しました。超微細気泡は有機乳酸を組み合わせることで、野菜や果物の成長を促進させて収穫量を増やし、病気の発生を抑制する効果があります。イチゴ農家との協力を得て実証実験を進めている中で有用な効果が出てきています。個人農家でも導入できる水準の価格に設定することで普及率を拡大し、農業の生産性向上と食料自給率の向上に貢献することを目指しています。

●電動モビリティの開発

高齢者による交通加害事故が年々増加していますが、交通手段が少ない地域では免許返納が進まない問題があります。免許返納後に自由に移動できる手段として特定小型原動機付自転車の車両を提案しています。一般的な特定小型原動機付自転車はキックボードのような二輪車となり、高齢者にとっては操作が難しいです。当社では、四輪の特定小型原動機付自転車を開発し、安全・安心な移動手段として提案を行っています。

昨年度は渋川市と包括連携協定を締結し、渋川市役所職員の日常の移動手段や伊香保温泉での移動手段の一つとして実証実験を行い、社会実装への検討を進めています。特定小型原動機付自転車は免許返納者にとって安全かつ便利な移動手段となり、地域の交通事情の改善に寄与することを目指しています。



●陸上養殖事業の開発

天然魚の漁獲量の減少に伴い、養殖魚の水揚量が増加しています。代表的なサーモン養殖は海面養殖が主流であり、魚のエサやふんによる水質汚染、養殖資材によるマイクロプラスチックの排出、脱走による生態系の破壊が問題となっています。当社では、閉鎖循環式陸上養殖システムを開発し、海なし県群馬で海水魚の養殖技術を構築し、海に依存しない養殖技術の開発に取り組んでいます。持続可能な養殖技術確立し、水質汚染や生態系の破壊を抑制しながら、養殖魚の供給を継続していくことを目指しています。同時に地産地消を目的とした広報活動も行っております。



当社にとってのSDGsビジョン

山田製作所は「YAMADAブランドは未来を『つくる』技術の証“ちえのわ”で人と地球に喜びを」をビジョンとし、「技術革新で世界の欲しいをつくり出す企業へ」「未来の地球を守るものづくり企業へ」「誰もが働きがい創造できる企業へ」の3つの方針のもとSDGsに取り組んでおります。

今後の展望と求めるパートナー像

これらの取組は新規事業として、国内を中心に本格的な販売を行っていく予定です。求めるパートナー像は、量産前の実証実験を行うフィールド（野菜や果物の成長促進の効果検証できる農家、施設内の移動手段として試験利用してくれる公共施設など）を提供していただける方になります。